

温室

この蒸し風呂（温室）は、江戸時代（1603～1867）に現代的に復元したものである。病人が医療を受けることができる薬王院の一部として機能する寺院の境内の建物である。サウナのように機能する温室は、痛みや傷をきれいにし、感染を防ぐために利用された。永観堂の最初の温室は、第7代住職の永観（1033～1111）によって作られた。永観は永観堂の中興の祖であり、多くの重要な貢献をした。貧しい人や病気の人の世話に深く関わり、1097年に薬王院を設立した。

現代のような水道設備はなかったため、僧侶たちも蒸し風呂を使用していた。水を控えめに使用し、僧侶たちは一人桶二杯の水だけを受け取り風呂に入った。この少量の水は、蒸し風呂を利用するとき、効果的に汗や結露を拭き取るのに使用できた。温室を使用するとき、水は蒸気で満たされた立方体の木製小屋の下で沸騰させられる。このような蒸し風呂に関する最も古い記録は、10世紀初頭にまで遡ることができる。